

調布の宝 国分寺崖線

入間町2丁目 NTT 社宅跡マンション計画地を植生調査

— 「多様な生態系に配慮した計画」を求めて —

4月30日(水)、以前から申し入れていた建設予定地およびNTT研修センター国分寺崖線沿いの植生調査を事業者コンサルとともに行いました。市内で植物観察会を行っている方を中心に調布環境市民、入間・樹林の会メンバーなど市民7名が参加しました。

昨年もNTT研修所の植物観察会を同時期に行っていたので、比較観察をすることができました。NTT社宅跡のマンション建設予定地では、調布に1本しかない植物など貴重な植物を確認。公園側のウラシマソウなどは他の樹林地への移設も検討課題としてあがりました。



↑ 栄養状態で雌雄の変化するウラシマソウ

← 道路拡張で危ういアカマツ林



今回の調査で、市内でも見たこともないほどのニリンソウの群生地がマンション建設地と崖線側に広がっているのを確認しました。この貴重な群生地が建設工事によって失われることは避けなければと思います。

また、計画地に隣接している崖線には、キンラン・ギンラン・ササバギンラン・ヤマユリ・シュンランなど貴重種が多くあり、この崖線の植生等がマンション建設により通風や日影の影響を受けることが心配されます。今回の結果を踏まえ、長年にわたり保全活動をおこなってきた市民の立場からの要望を出して行く予定です。

(レポート: ちょうふ環境市民の会)



群生するキンラン



調布の自然 魚 編 トウヨシノボリ

すっかり初夏の日差しとなり、川の水温も上昇してきました。多摩川でもアユの遡上やコイの産卵が認められ、水中にもぎわいを見せています。

今回紹介する魚類は、淡水産のハゼの一種であるトウヨシノボリです。

本種はハゼ科に属する体長6cm前後の底生魚です。雄の尾鰭基部に婚姻色として橙色の斑紋が現れるため、トウ(橙)ヨシノボリの名前がついています。ヨシノボリ類の中でも最も地域変異に富む種類でもあり、今後、さらに分けられることも考えられます。

北海道から九州にかけての河川下流の緩流域や止水域に多く生息し、ユスリカ等の水生昆虫を主な餌にしています。



ちなみに、学名は *Rhinogobius* sp. OR. と表記され、実のところ正式な名前はまだついていません。というのも、最初に「ヨシノボリ」として名付けられた魚類の中に、生態的・遺伝的に区別される多くの様々な種類が混じっていることが後に判明したのですが、最初に名付けられた標本の色が抜けてしまい、この標本が現在でいう〇〇ヨシノボリのどの種類に該当するかわからなくなってしまったわけです。そのため、その後に分けられた種類も結局名前を決めることができなくなってしまったということです。

(石川和宏)

多摩川今昔②

4月の環境モニターでお世話になった地元生まれの戸部英貞先生、ちょっと昔の調布のお話です。

○多摩川と台風

調布は多摩川の中流域に当たり、学校にプールの設備が無かった時代、多摩川原水道橋の下手で行われていた水泳教室は、流れの中、水泳と云うよりも水遊び程度のものであった記憶がある。

現在よりも水量が多く、流れの早かった多摩川は、子供にとって対岸（稲城側）は外国のように遠く、小学生が泳いで川を横ぎるには、かなりの技術が要求され、悪ガキ達のリーダーが教えてくれた泳法は古泳法の一つ「抜き手」だった。

今も昔も台風はやってくるが、小河内ダムの無かった多摩川は、奥多摩の山地に降った雨がそのまま流れ出るため、台風が去った後も水量が多く、濁流中の流木を取り入って遭難した話や復員軍人を乗せた列車が濁流の中に転落し、多数の遺体が漂着したことなど台風による事故も数多くあった。

堤防で囲まれ、川幅いっぱいの濁流は、魚も泳ぎきれず、岸辺の草むらに逃げ込んだおり、その魚を玉網で捕まえることが出来た。子供にとっても魅力的漁法だった

が、親からは決して川に近寄らないように命じられていた。また水が引いた後、川の流路が変わることがしばしばあり、河川敷には新しく水溜まりが出来、上流にある養魚場から逃げだした錦鯉や金魚、時にはスッポンやイシガメを捕らえたこともあった。

台風の効用はそれだけではない。濁流は川底の汚れを一掃し、河川敷に生えた樹木をなぎ倒したり、押し流し、カワラマツバ、カワラナデシコ、カワラサイコなど柔軟な茎を持つ河原植物の生態系は維持していた。（戸部）

※昨年秋の台風による被害でニヶ領堰辺りの大きな木が流されたり、ワンド付近のようすが変わってしまったことは、このお話の頃と変わりませんね。（編集部）



◆カニ山の会

5/10（土）小雨 参加者6名

東樹林地西側入り口付近に新たに通路として使用された始めた箇所があり、裸地化が進行。そこで通行抑制と林縁部の保護のために植物移植班と防護柵班の2班に分かれて、保全作業を行った。林床より掘取り植え付けたのはグミ・ヤブラン・クサバケ・モミジイチゴ・シロタモ等。

感想・ハゲていたところに植物が戻り良くなった。・アオキの剪定で明るくなり防犯

面から良い。・下の段は水環境が良いので植物保護ゾーンにするのが良いのでは。

・踏み荒らされる可能性があるが、手入れを継続したい。・道具の使い方が勉強になった。・今回の作業は造園作業であり、山作業

ではこのような細かい作業はしないが、都会の中の森では、このような作業もありかなと思う。・ツバキが想像以上に堅く、杭作りで体力を使った。・子どもたちの行動（踏み荒らし）が心配。（小島）

〈※かに山の会活動報告より〉



▲作業前



▼移植後（手前が防護柵）

◆環境モニター

5/3（土）雨 参加者10名+2名（スタッフ）

前日からの雨で滑りやすいが、土手を降りワンド周辺の観察を行った。新メンバーは「ワンド」という言葉も初めて聞くようだったので、戸部先生や旧メンバーが説明。「流れはあるが川の脇のよどみで、小魚などの棲みかとなるところ。ここは生物多様性を目的に人工的に作られたが、年々規模が小さくなっている。」雨のため思うように観察記録がつけられず、主に新メンバーに目立った植物の名前を教えた。イネ科の植物も多かったが、詳しい見分けをできる人がいなかったのが残念。川の中ほどの浅瀬でマルタウグイが産卵しているようだが、近くにいたアオサギ・カワウも魚の大きさをもてあましているようすだった。その他キジを含め、数種類の鳥の鳴き声もきかれた。（鍛冶）



雨の中、ワンドへ降りるメンバー



ワンド上に咲くノイバラ

♪学校サポート頑張っています♪

調布の自然学習ボランティアでは、市内小学校の環境学習のサポートを行っています。

今年も新学期に入り、多摩川や野川での学習のサポート依頼が入り始めました。

先日(5月15日)は、富士見台小学校4年生と多摩川上流の鳩ノ巣溪谷と御岳溪谷への校外学習に行ってきました。御岳溪谷では、ライフジャケットをつけて川に入り魚を探すグループのほかに、虫・水質検査のグループに付いて、子どもたちと活動してきました。

朝8時に学校を出発して、京王線・南武線・青梅線などを乗り継ぎ学校に戻ってきたのは、4時近くで子どもたちだけでなく、付き添った私たちも疲れましたが、水の色や流れの速さ、石の大きさなど、調布の多摩川とは全然様子の違う多摩川を観察でき、満足気な子どもたちの顔を見てほっとしました。

これからも子どもたちの笑顔を励みに色々なサポートを頑張っていきたいと思います。
(調布の自然学習ボランティア 杉山典子)

みんなでつくろう、あしたの野川

5・17(土)13:00から調布市立調和小学校体育館において、第3期の活動報告会「みんなでつくろう明日の野川」が開催された。主催の野川流域連絡会は、野川源流の国分寺から最下流の世田谷まで(小金井・三鷹・府中・調布)の都民委員・市民団体委員・行政職員の名が参加。(事務局は東京都河川部北南建)

調布からは「ねこじゃらし」「野川で遊ぶまちづくりの会」が情報バザールコーナーに参加。市民団体委員として参加の「身近な川を見守る会」展示コーナーでは、3月に「ちょうふ環境市民懇談会」が作成したエコマップ・エコカレンダーを拡大カラーパネルにして紹介した。また、午前中の「3コースの散策での調査では、犬の散歩のマナー、川の水量確保、野川の水源になっている崖線樹林地の開発問題などについても意見交換がされ、第4期の活動に反映される。小学校の体育館を借りられたことに感謝の声があったが、駅から遠いこともあってか参加者は少なめだった。

(身近な川を見守る会 江刺益子)



◆田んぼの学校

今年の学校は、3月29日野川のお花見で事前顔合せから始まりました。

4月6日 開校式を行い、今年度の作業日程、作業内容等それに付随する説明を頂き解散です。経験豊富な方、時々顔を出す方、全く初めての方、小学高学年、低学年と様様ですが、向かう方向は皆同じの様です。農作業は人間生活の原点、自然の恵みによって守られ、生かされているという事を実感する仕事と改めて感じました。お米はどのようにして出来るのか、お勉強の始まりです。

4月13日まず作業開始です。種籾を水に浸けました。

4月20日苗床作り、種蒔きです。雑草取り、土おこし「ふるい」かけ、種蒔き、覆いをして水口を開き苗床に水が廻って来た時は感動でした。皆拍手をして喜びあいました。(佐々木)



佐須の田んぼ



◆入間樹林の会

5月18日(日)樹林地の整備作業(誘導路や外周の排水設備等の設置)が済み5月1日に公開されたので、今後の整備作業計画を決める事もあり、参加者で全体を一通り見て廻ってから作業に入った。

◇軽い準備運動を済ませ樹林地に入りましたが、先月の報告で懸念された「市民マナー」については問題がありませんでした。①新しいゴミは無し。②さらに嬉しいことに犬の糞が1個も無かったことをお知らせします。

◇整備の影響か

①花は少なめでしたがエゴの花が香しさをただよわせていました。またヤブニンジンやハルジオン、ヒメジョオンが咲いていました。④風通しがよくなったせいか、メジロやシジュウカラのさえずりが心地よくヒヨドリやワカケホンセキセイインコの鳴き声も近くなったような気がしました。

◇林床へもっと光をとるという合意の下、高枝鋏による枝の剪定、シュロの伐採を行い、久しぶりの好天に恵まれたこともあり、作業が順調に運び、いい汗をかきました。(里)



☆ 市民エコ活動カレンダー & おしらせ ☆

★全ての会でメンバー随時募集中！

◆環境モニター

6/7 (土) 9:30~12:00
 集合場所：深大寺5差路 歩道
 内容：都市森の丘の植物調べ
 持ち物：図鑑・筆記用具等
 ※市内の自然環境調べや「調布そぞろ歩き」のガイドを行っているグループです。

◆カニ山の会

6/14 (土) 10:00~12:00
 集合場所：深大寺自然広場、野草園横
 内容：前回植樹場所メンテナンス その他
 ※原則毎月第2土曜に東樹林の保全活動を行っています。参加希望の方は直接集合場所へおいで下さい。
 (年会費500円+保険料)

◆入間・樹林の会

6/15 (日) 9:30~12:00
 内容：保全作業
 集合場所：入間地域福祉センター
 ※原則毎月第3日曜に活動しています。

上記3グループとも
 問合せは環境政策課 042-481-7086 まで

(仮称) 新環境市民懇談会 準備会

日時：7/8 (火) 18:30~20:30
 場所：たづくり 1001 学習室
 内容：「調布市環境基本計画」の学習会
 ※この運営会議にはどなたでも参加できます。資料準備のため事前にご連絡下さい。
 042-481-7086 (環境政策課：小松)

この「自然だより」は、市民が編集をしています。お手伝いいただける方を募集しています。ご連絡下さい。
 よろしくお願ひします。

環境政策課の窓

国領町1丁目で見つかった不発弾の撤去作業も無事に終了し、近所にお住まいの方もやっと一安心されたのではないだろうか。私も含め戦争を体験していない世代の者にとってはなんだか実感のないものだったが、近くの避難所である小学校等に避難された高齢の方の中には、戦争の記憶を蘇らせた人も多かったかもしれない。爆弾と一緒に心の奥深くに埋まっていたものが掘り返されるのは、どんな気持ちだったか私には想像がつかないが、これから調布駅近辺も本格的に地下化の工事が進められ変わっていく。

まちの風景と共に変わりゆく調布の環境が今後どのようなものになるか、それはこれからの私たち一人ひとりの行動にかかっている。戦争の記憶も責任もない私たちだが、未来の環境に対する責任は深く大きい。6月は環境月間。皆さんの様々な思いの上に築かれる新しい未来が幸せなものとなるよう、今一度日々の生活を見つめ直したい。(環境政策課 小松)

第36回 調布市 環境フェア

～みんなで守る、緑豊かなわが調布～

日時 6月7日(土) 10:00~15:00

場所 市役所前庭

*エコ活動・製品の紹介 *リサイクル工作 *花の種等の無料配布 *スタンプラリー(景品有り)と、今回の環境フェアは盛りだくさん。参加団体も増えました。
 ぜひご来場下さい。

同時開催 多摩川クリーン作戦 感謝のつどい

10:15~11:45 グリーンホール小ホール

落語芸術協会の皆さんによる落語やエコ大喜利(入場無料)。

環境市民懇談会のコーナーでは
 「丸木切りトライアル」をやります

◆ 編集後記 ◆

5月は白い花が多い。中でもヤマボウシは木の上に乗っているような形で咲くので遠くからでもよく目立つ。琥珀神社のヤマボウシは木も大きく、真っ白な雲をかぶせたようだ。そして先月号で紹介したニリンソウは若宮八幡だけでなく、国分寺崖線にあるNTTの宿舎跡にも真っ白な花を咲かせていた。どちらも武蔵野にふさわしいすてきな花。(Nao.K)



新ちょうふ環境市民懇準備会-広報部(仮称)

連絡先：調布市環境政策課 tel 042-481-7086
 E-mail: kankyuu@w2.city.chofu.tokyo.jp

～調布市ホームページでカラー版がごらんいただけます～
 市公式HP→くらしのガイド→環境→環境学習→自然だより